

令和2年11月20日

11月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調になってきたが、昨年と比べると少ない。日光・鹿沼地区の入荷は順調だが、県北地区は少な目である。製材工場の手持ち在庫に不足感が見られ、スギ、ヒノキの小径材・柱材・中目材全ての引き合いが強い。スギ柱材は16,000円/m³、ヒノキ中目は20,000円/m³を超える入札となっている。

群馬でも出材が徐々に増え、原木不足は緩和されつつある。製材工場の原木在庫も増加傾向にあるが、例年の半分程度でしかない。工場操業は通常の8割程度を維持している。受注は増えているが、依然細かい注文が多い。製品市場からの引き合いも増え始めているが、ホームセンター向けは平年並みである。製品在庫が少ないため、羽柄材、構造材とも増産を予定している。割物類、仮筋交い、筋交い類が不足しており、米マツ製品の品薄の影響と見られる。製品価格は低位安定だが、米マツの代替製品は品薄で値上がりしている。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は本格稼働に至っていない。一方、米国では製材工場の原木集荷が活発な中、9月のオレゴン州を中心とした山火事後のサルベージ伐採に人手・トラックを取られ、製材用原木の十分な確保が困難な状況にある。このため米国、カナダの港頭在庫は低水準が続いている。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は11月積み\$960で4ヵ月連続の上昇。12月積みは若干の上昇ないし横ばいと予想される。米国の製材品市況は9月最終週に反落し、ランダムレングス紙発表の15種平均価格(10/30)は\$610/Mで9月末に比べ34.5%の下落となった。この辺りが大底との見方もあるが、多くの市場関係者は様子見である。現地製材各社の在庫が潤沢でないため、日本向け供給が順調になるまでには時間を要するだろう。

9月原木入荷量は128千m³、1~9月累計で1,384千m³(前年同期比25.6%減)。カナダからの入荷が前年同期比75%減に対し、米国からは0.6%の微増となった。出荷量は148千m³、1~9月累計で1,400千m³(同24%減)。在庫量は減少し161千m³、在庫率は1.08ヵ月。国内米マツ製材工場は前年同期比15%減程度の稼働が続き、落ち着いている。東京木材埠頭の10月入荷は14

千 m^3 (前月比1.0%減)、出荷は19千 m^3 (同19.6%増)、在庫は23千 m^3 (同19.6%減)。港頭在庫は月を追うごとに減少している。年内は入荷の少ない状況が続くだろう。

3. 南洋材

サラワク州では9月以降、降雨続きで原木生産は低調。輸出玉が少ないところにインドからの引き合いが増え、FOB価格は\$10~20/ m^3 程度の上昇。インドはソロモン、スリナム、PNGへシフトし、不足分を確保している。PNGでは一部のキャンプで原木生産が停止している。外国人労働者が新型コロナ絡みで戻れず、また現状のFOB価格では採算が取れないことなどが要因。11月予想の原木入荷・出荷量は4千 m^3 、在庫量は20千 m^3 、製材品入荷量は30千 m^3 。製材用のクルイン、アガチスなどサラワク産の一部樹種は欠品状態にある。

4. 北洋材

シベリア各社はアカマツ野縁製品の日本からの引き合いが回復し、7ヵ月ぶりに値上げに動いた。上級グレードは\$15/ m^3 程度の上昇である。シベリア地区では新型コロナが再燃して各工場は低水準の稼働が続いている。日本向けオファーも限定的である。9/30にプーチン大統領発表の2022年1月からの原木全面輸出禁止に関して対日向け原板は対象外となる見込み。国内製材メーカーは、夏場の値下げ玉を手配済みであり、次回は冬伐りの新材交渉に入るが、DIY向け荷動きが低調なため買い気は薄い。現地挽きアカマツ野縁製品は不足局面となり、値戻しを打診中だが、中間・下級グレードは流通在庫が多く、未だ動きは回復していない。11月予想の原木入荷・出荷量とも2千 m^3 、在庫量は13千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)15千 m^3 、出荷量21千 m^3 、在庫量46千 m^3 。東京木材埠頭の製品在庫は大幅減だが、川崎は依然として減っていない。

5. 合板

合板用の国産材原木価格は現状横ばいであるが、引き合いが少し出ており潮目が変わってきた。ロシア材は少量での取引が続いており大きな変化はない。米材は今のところ弱含みであるが、米国内市況が良く先行き強含みの気配。南洋材は出材不安定であるが、今のところ大きな問題はない。

9月の国内合板生産量は24.0万 m^3 、うち針葉樹合板は23.2万 m^3 、出荷量は24.7万 m^3 で、在庫量は13.1万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は10.9万 m^3 と5月以降減少が続いている。針葉樹合板は各メーカー減産の効果により逼迫感が強くなり、価格は底値から反転し、やや強含み傾向にある。輸入合板

は入荷が極端に少なく、不足感が出ており、少し値戻しが始まっている。9月の合板輸入量は13.5万m³と過去最低となった。インドネシアでは悪天候のため、一部地域で原木供給に不足感が出ている。日本向けの注文が低調ながら回復しつつあり、工場の操業は一定の水準を維持している。マレーシアでは悪天候により原木供給が低調な上、人手不足もあり、合板生産量は減っている。

6. 構造用集成材

10月のラミナ入荷は通常より少ない。国内メーカーが先行き不透明感により第3・四半期契約を絞った影響である。また現地メーカーも米国や中国の需要増で日本向けを減らしている動きも見られる。第4・四半期交渉は前回比€10/m³程の値上げで、オファー量も少な目である。今後も現地メーカーの需要旺盛な地域を優先する姿勢が続くとみられる。構造用集成材の第4・四半期交渉はラミナ同様、前回比€10/m³程の値上げとなった。円安傾向もあり、製品コストは上昇する。構造用集成材の入港量は8月をピークに落ち着きつつある。第3・四半期交渉において契約量を絞ったプレカット工場も多く、年末にかけて入港は減少する見込みである。

7. 木材チップ

チップ原木は市況悪化で伐採中止・延期等があり、様子見の状況で入荷は悪い。解体材は発生量が少なく、冬場に向かってのタイト感が非常に強い。製紙用チップの消費量は回復傾向にあるが、会社、工場毎にバラツキがある。燃料用チップの使用量は増加傾向にあるが、一部ではタイヤやRPFの配合比率を増加させる傾向にある。原木、解体材ともに在庫のある工場と無い工場の二極化が著しい。

8. 市売問屋

10月も期待していた程の動きはなく、新型コロナの影響で材木店の当用買いが当分続くだろう。構造材は国産材、外材ともに増改築が中心であり、造作材も量が動かない。値段が安ければ売れるという雰囲気もない。見積もりも既製品でない少量の注文材で納期が短いため、間に合わない場合もある。

9. 小売

夏場から遅れていた現場が徐々に動き出している。10月に入り、増改築工事の再開が聞かれるようになり、それに伴った材が動き始めている。スギ・ヒノキ構造材の動きは総じて鈍いまま。輸入SPFや米松製品の価格上昇により市場に底入れ感が出始めている。米加材では45×90×3m、4mの品薄が強い。米材内地挽の45×36×3mも少なく、入荷待ちの状態が続いている。欧州材、WW間柱は当用買いが続いている。ロシア材の中・下級材の荷動きは鈍い。

非住宅の受注が増えており、内装・造作材を納材している材木店は多忙である。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和2年11月20日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↗
			スギ中丸太(3.65m)2等	↗
			ヒノキ柱材(3m)2等	↗
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↗
		アカマツ(KD)16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→